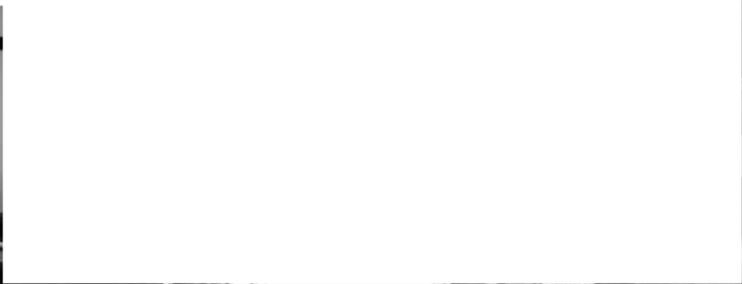


フォト
ルポ

民家に泊まって深まる交流!
子ども農山漁村交流プロジェクト



⑤こんなにやくづくりに挑戦⑥バーベキュー用の野菜の収穫。うれしそうに採れたピーマンを見せてくれた⑦初めてのお釜での炊飯⑧孟宗竹でのごはんづくり。竹は自分たちで切って作り、自分たちでいだお米を入れた⑨そば打ち体験⑩田んぼに牛糞を撒く農作業を体験⑪ついにお別れのときが。なごり惜しげにいつまでも手をふっていた。

①宿泊先の家族のみなさんと団らんのひととき。これが子どもたちにとって一番の思い出になった②1日目。山口市の大海小学校の5、6年生が俵山公民館に到着③開所式で地元の人たちに「お世話になります」とあいさつ。俵山での体験学習がスタート④俵山の町中を散策。猿まんじゅうをもらったり、足湯に浸かったりした。この後、ホストファミリーと対面した。

都会の子どもたちが農村や漁村に宿泊して、その地でしかできない様々なことを体験するプロジェクトがスタートした。俵山地区は今年度そのモデル地域に採択された。そして、9月と10月、下関市と山口市からたくさんの小学生が俵山を訪れた。地元では受け入れにおおわらわ。児童らは初めての体験のあれこれに目を輝かせた。そんな俵山の数日に密着してみた。

農林水産省、文部科学省、総務省が連携して行う「子ども農山漁村交流プロジェクト」が今年度からスタートしました。これは、教育活動や地域づくりの一環として、小学校1学年程度が、農山漁村で1週間程度の長期宿泊をし、その地域の自然やくらしを体験しようというものです。俵山地区では5年ほど前から、都市農村交流や首都圏からの大学生の受け入れを行うなど、グリーンツーリズムを活用した地域おこしに積極的に取り組んでいます。この実績が評価され、このプロジェクト事業の受け入れモデル地域に採択されました。

10月7日から10月10日まで、文部科学省のモデル推進校に指定された山口市の大海小学校の児童が俵山地区を訪れ、民家に宿泊しながら、こんにやくづくりに、そば打ち体験、つるし柿づくりなど山村でしかできない様々なことを体験しました。離村式で児童の代表は、「民泊が一番楽しかった。友情も深まった。できればもう一度みんなで俵山にきたい」と話しました。

受け入れ家族であり俵山グリーンツーリズム推進協議会会長の重村法弘さんは、「子どもたち自身も、受け入れた家庭も、とてもいい経験になったと思います。受け入れは大変ですが、子どもたちの一生の思い出になると思うし、受け入れた家庭もやりとげた感激が大きい。後に届いたお礼の手紙には児童の親から「子どもが一回り大きくなったようだ、俵山に行かせてよかった」と励みになる内容が書かれていました。まだまだ課題はありますが、今回のプロジェクトとしての目標は達成できたと思います」と話してくださいました。

長門市では、このような体験交流プログラムを多くの地域で実施し、交流人口の拡大による地域振興につなげていきたいと考えています。